

ひがしゆり

HIGASHIYURI

東由利町
1999 10
NO.535

「秋の風物」



▲「高瀬小稲かり」から

△「全県野焼きを楽しもう」から

各施設建設工事 着々と進む

八塩いこいの森にセンターハウス

「あきたこまちと由利牛の里東田利」をキャッチフレーズに、現在町では様々な補助事業による施設建設工事が進められています。

備が完成したことにより、来るべき農村リゾート時代に即した交流拠点としての役割が期待されます。

まず、中山間地域総合整備事業では八塩いこいの森に活性化施設（センターハウス）が、山村振興等農林漁業特別対策事業では農産物処理加工施設、高齢者等活動・生活支援促進機械施設が建設されています。

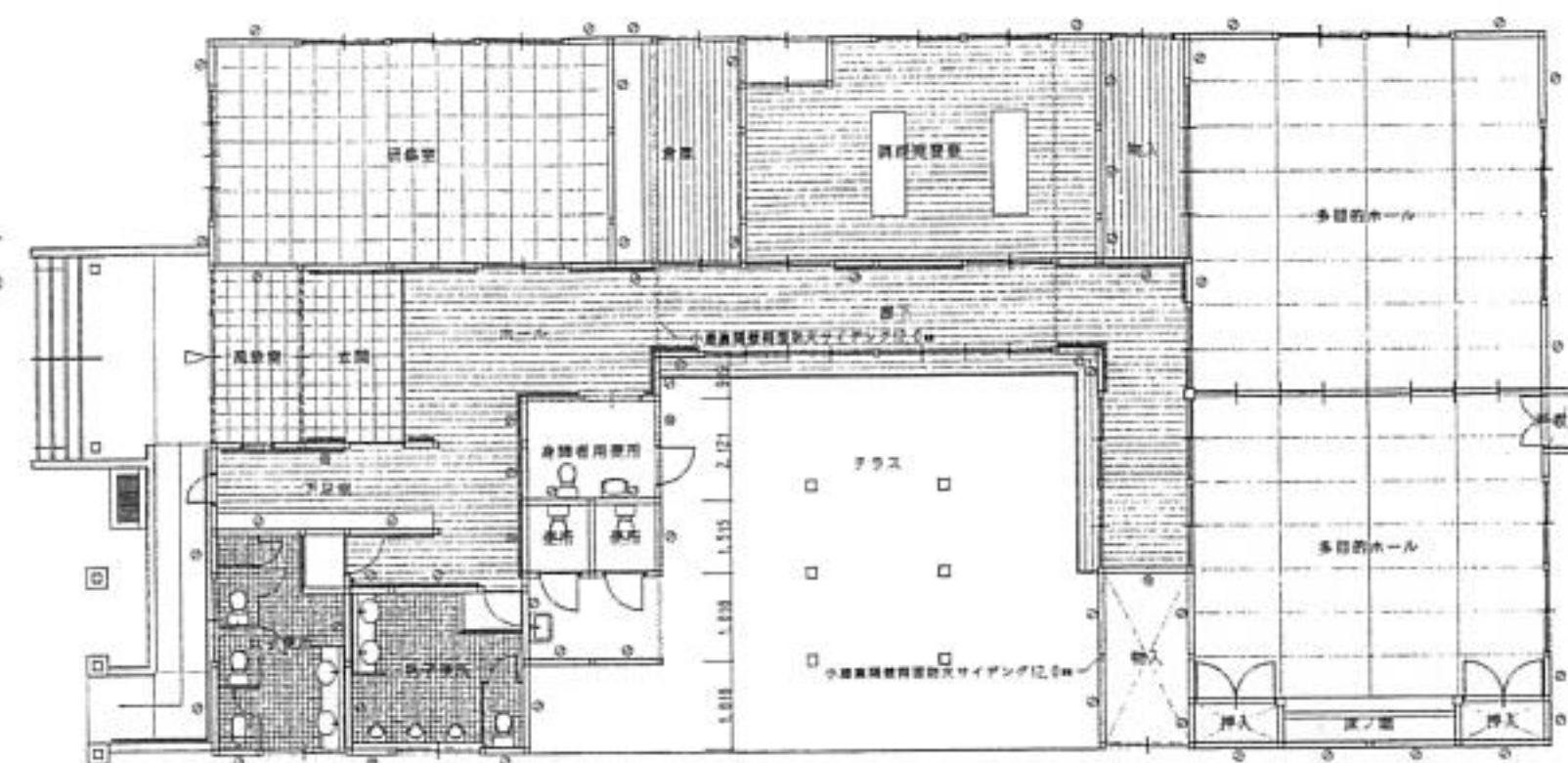
この施設は八塩いこいの森の中心的交流拠点として町内のみならず他地区の皆さんに利用されることが期待されます。

■活性化施設（センターハウス）

■農産物処理加工施設

・目的…八塩いこいの森地区は本町の隣接町はもとより都市部にも農村環境のよさを宣伝でき、またスポーツ、各種イベント、レクリエーション等による交流の場としての役割を担うべく開発が進められています。この春には多目的活用化広場の整

・目的…生産加工の組織強化を図りながら、加工品、特産品の製造販売促進により、組合員農家の所得安定の確保を目指します。また特産品の研究、開発拠点としての役割も期待されます。

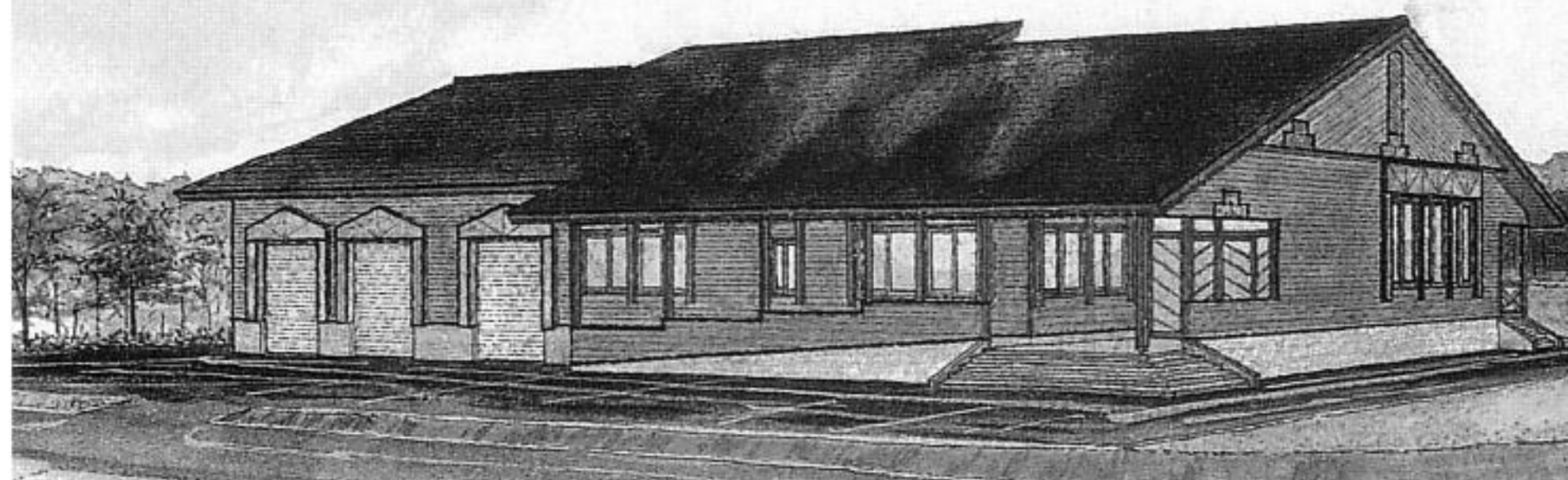


▲高齢者等活動・生活支援促進機械施設の平面図

・概要…木造二階建、延床面積二五五・八八平方メートル／建設地…老方字四ツ眼地内（JA秋田しんせい隣）

■高齢者等活動・生活支援促進機械施設

▲八塩いこいの森センターハウスの完成予想図





▲9月3日に行われた起工式

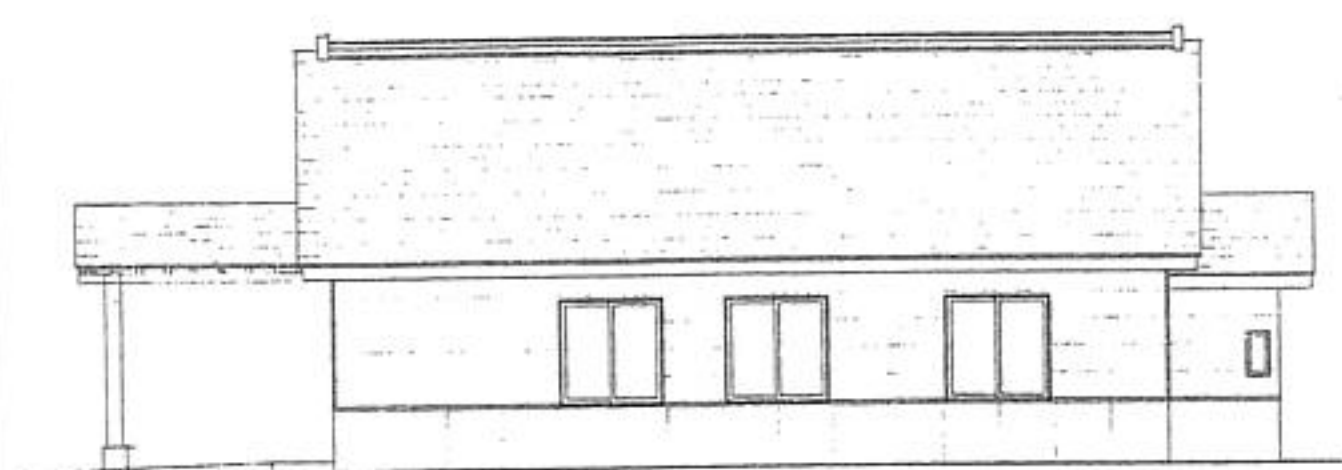
・目的…高齢者の皆さんが安心して住み、かつ積極的に活動できる生活環境整備のため、地域の高齢者、各団体活動、文化活動を促進し、地域の活性化が図られることが期待されます。

・概要…木造平屋建、延床面積三七五・八七平方メートル／建設地…田代字住吉地内（旧住吉小学校跡地内）

九月三日には、八塩いこいの森で活性化施設（センター

完成後の町活性化に期待

ハウス）の、また、旧住吉小学校跡地で高齢者等活動・生活支援促進機械施設の起工式がそれぞれ行われ、町や工事関係者など五十余名が出席しました。神事では、阿部幸悦町長をはじめ、関係者による鍬いれの儀式が、また起工式では阿部町長が「八塩地区、および町の大きな活性化につながってほしい」とあいさつをしました。



▲農産物処理加工施設の完成予定立面図

町長日記

二つの起工式

九月三日に八塩いこいの森の中心施設になる活性化施設「センターハウス」と、住吉小学校跡地の整備ともなる高齢者等活動・生活支援促進機械施設の起工式がありました。

八塩いこいの森のセンターハウスについては、来年五月に開業となるオートキャンプ場はじめ八塩いこいの森一帯の管理の中心施設になるものです。

今は野鳥の家を中心にした管理体制を執っているとありますが、オートキャンプ場ができあ

がつてくると中心がキャンプ場の方に移っていきます。新しくできあがる施設を中心にした管理体制にしていかなければなりません。同施設は管理員室と車庫、そしてシャワー室が中心の施設になります。

旧住吉小学校跡地の整備ともなる高齢者等活動・生活支援促進機械施設は山村振興事業での取り組みになります。

旧住吉小学校も旧玉米小学校との統合で廃校になってから十七年が経過したことです。旧校舎を解体せずに老人クラブや青年会、そして八塩芸能クラブなど地域の皆さんが有効に活用してきましたが、老朽化が進み危険性はないかと心配をしていた

ところです。

この度、県の担当課の支援を得て山村振興事業でこの整備に着手することができました。せっかくのこの機会にと、旧校舎は体育館も含めて全部解体させてもらい、さら地にした上で、地区の拠点施設を整備しようとするものです。

建物は地域の集会所としても使いやすいように段差をなくすなどのさまざまな配慮をしております。図面も何回か住吉地域協議会の皆さんに検討してもらい、意見もいただきました。

旧校庭も地域の運動広場やゲートボール場に整備をしていくつもりです。同時に機能的な利用をと、外からもトイレなどは

使えるように、また中庭的な使い方もできるようにとの工夫もされているところです。

かつて小学校はその地区毎のいろいろな意味での中心でありました。例えば学校の運動会や学校のみならずその地区民全員の運動会でもあったことです。

それが児童数減少ということになり、で学校統合ということになり、廃校となってしまっています。その時点で校舎もすぐ解体できるかという、いろいろな思いもあり、それはできないことです。どこでこの思いを断ち切っていくのか難しいところです。

確かに年何回かは使用するのでありますが、使用の頻度が少ないとかえって老朽化が進んで

いくことでもあります。

この旧住吉小学校校舎についてもそういうことでありましたが、今回、地区の皆さんのご理解もあり、新しい出発ができることになったところです。広場には記念のモニュメントも、という住吉地域協議会の計画もあるようです。

住吉地区は八塩いこいの森の玄関口でもあります。この施設を拠点にますます元気な地区になっていくことでしよう。

それぞれの思いも合わせて、いい整備事業になることを祈念しながら起工式を終えたところであります。

十年度一般・特別会計決算が認定



第九回 議会定例会

第九回議会定例会は九月十三日に招集され、会期を九月十三日から二十二日までの十日間としました。

初日、十三日は阿部幸悦町長の行政報告、三議員による一般質問の後、平成十一年度東由利町一般会計補正予算案など七議案を原案通り可決しました。また各請願、陳情等を各委員会に付託、散会しました。

十四日からは平成十年度各会計決算認定案等の審査が行われ、最終日の二十二日、助役の選任につき同意を求めることについてなど六議案を原案通り可決。平成十年度東由利町一般会計及び、各特別会計歳入歳出決算を全会一致で認定し、閉会しました。

町長行政報告

(一部抜粋)

**地域振興券使用期間終了
換金率九一・二パーセント**

さる三月十日に交付した地域振興券は一千三百九十人分、二千七百八十万円相当となっております。その使用期間は六カ月間となっております、九月九日をもって終了となりました。

九月八日の支払い日までに換金された分が二千五百三十四万一千円であり、換金率は九一・二パーセントです。

**バス待合所
湯楽里、ぶれっそ裏に設置**

老方地区拠点施設内「温泉保養施設湯楽里」、「地場産業セン

ターぶれっそ」等を利用される方で、いわゆる交通弱者といわれるバス利用の方々のために、バス待ち合い所を新設します。

羽後交通と協議しながら一番便利な場所ということで、湯楽里裏にバス停留所の新設をお願いしたところ、羽後交通で陸運事務所に申請中であり、許可が下り次第十月十日から利用できる見通しとなりました。

なお両前寺バス停についてはこれまでどおり停車することになっていきます。

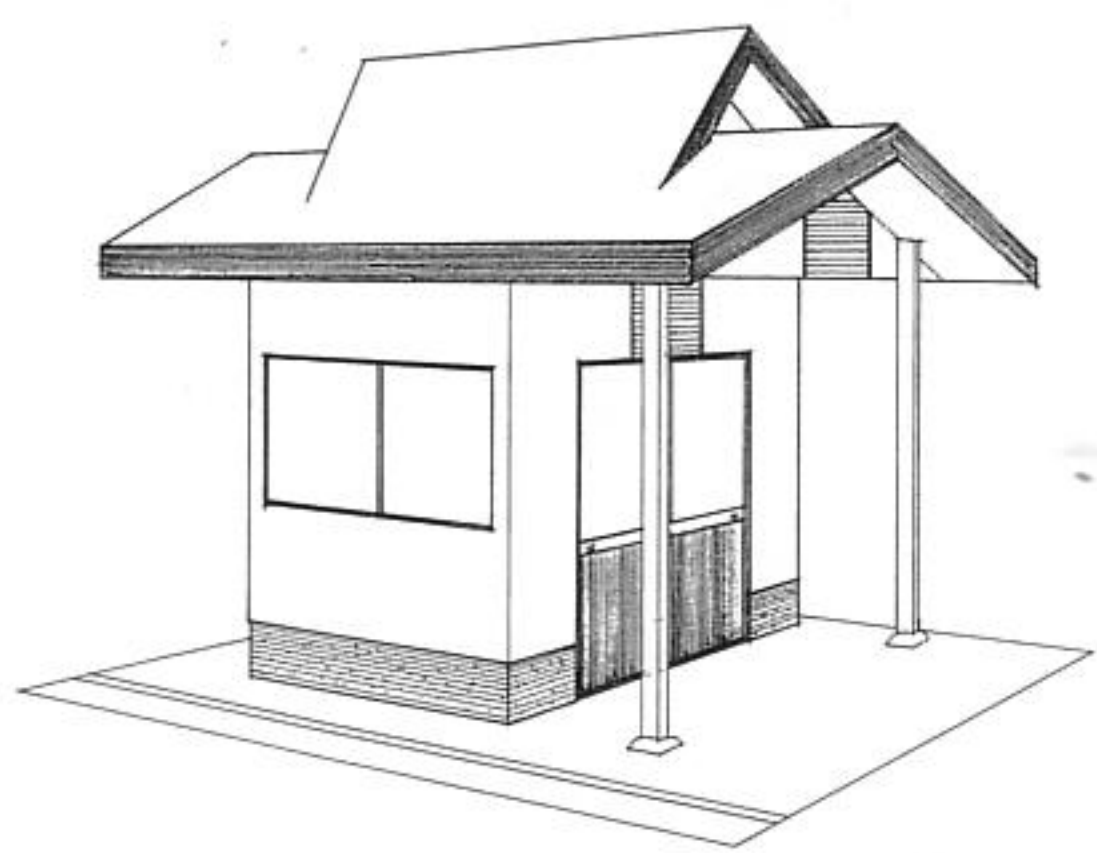
**旧町民プールから出火
被害は最小限に**

昭和五十一年建設の住吉にある旧町民プール付属木造施設から八月十一日午前二時半頃出火しました。

早期発見と消防関係者の懸命な消火活動によって、旧トイレ部分の焼失ですみました。それに伴い収蔵していた民俗資料の一部が焼失しました。

**少子化対策に国が一千万円
児童用の遊具を設置**

本町に少子化対策臨時特例交付金の交付限度額、一千万円の配分があり、八月末日まで厚生大臣に交付申請書を提出するよう指示がありました。



▲道の駅裏に設置されるバス待合所

六十人ほどとなっています。

四月一日スタートの 介護保険準備進む

一市八町での介護保険事業計画の策定、そして介護保険認定審査会の準備が今の大きな仕事となっています。

七月に厚生省から示されたワークシート、そして八月二十三日厚生省の来年度予算概算要求で示された仮単価で保険料について試算した結果、本荘由利広域の推計介護保険料は二千六百円から二千八百円位という数値になりました。これを介護保険事業計画策定委員会に諮問し協議を行い了承されたところで

本町では、公共施設への児童用遊具の設置を内容とする交付申請書を提出しています。

町独自の事業など 福祉施策ますますの充実

なお、事業種目は東由利町児童育成計画「明るく元気なこともプラン21」の年次計画に基づくものです。

寝たきり介護手当事業は町独自の事業ですが、十二人の方が受給しています。

特別障害者手当は国の制度ですが、十四人の方が一ヵ月あたり二万六千八百六十円受給しています。

ホームヘルパーの利用実人員は

なお、国では最終的に介護報酬について一月末から二月初めに決定することとしていますので、介護保険料は最終的に三月に介護保険事業計画策定委員会へ諮問し、決定することとなります。

また保険者である本荘由利広域圏組合では、構成一市十町において介護保険認定申請書の受付を開始したところです。

町においては、今月の六日から三日間にわたり説明会を開催し、申請書の受付を行っているところです。

申請書の受付を行ったのは現在在宅でホームヘルパー等在宅福祉制度を利用されている方で、施設での福祉サービスを受けられている方などについては今後随時に申請受付を行っていきます。

申請書を出された方について、保健婦などが家庭訪問を行って調査を行います。認定審査会での一回目の東由利分は十月十三日となっています。

黒淵地区で 朝日放送の試験放送実施

黒淵地区百七十六戸の朝日放送難視聴解消事業として、今年度着工した黒淵中継局は関係者の理解とご協力をいただき順調に工事が進み、九月一日より試験放送が行われています。調整が終わり次第、本放送にかわるものです。

町民プール 好調な利用者数

七月一日オープンの町民プールは、今夏の記録的猛暑の影響もありましたが、八月末現在、総利用者数は四千五百四十八名の利用がありました。

今シーズンはアスレティッククラブの協力をいただき、小学生を対象に水泳教室を開催した

ところです。

今後は一般を対象とした教室を開催し、町民の水泳の普及を図ります。

各地区の道路整備 順調に進捗

国道特殊改良一種工事は仮称板戸一号トンネルで六月二十三日貫通式が行われました。この区間は板戸一期工区五百六十メートルで、平成十二年度には開通する見込みです。なお引き続き、板戸二期工区等の実施を行うとの情報があり、早期着工に期待しているところです。

神岡南外東由利線の岩館パイパス工事は八月十一日用地買収等の説明会が行われました。

県の計画では平成十一、十二年度で用地買収を行い、平成十二年度に法内側より着工、平成十三年度に橋工事・仮設工事・暗渠工事を実施し、平成十五年度の完成を目指しているところで

全体計画は一千三百七十メートル、総事業費は十一億円です。

横手東由利線の笹倉トンネルの改修は、全長百九十

六メートル、総事業費一億四千八百万円で進められています。平成十一年度に漏水補修工事を実施、全長完成となります。

基盤整備促進事業の農道整備は現在小田地区、新処地区、明通地区、アクト二期地区を実施しているところです。アクト二期地区以外は、八月に舗装工事を発注し今年度完成を目指しています。

県営ふるさと林道緊急整備事業の三ツ森山線、本町分については舗装工事三千六百七十三メートルをもって全線完成いたしました。



▲本町分が全線完成した林道三ツ森山線

林業地域総合整備事業について

追加いたします。

ては、湯出野線開設は平成十三年まで全体計画一千七百メートル中八百メートルを実施します。また八塩地区の駐車場整備は八千二百四十五平方メートルを実施。なお、駐車場の現地床掘の結果、一部路床が軟弱なため土の入れ替え等が必要となりました。同時に防犯灯八基設置しました。

また仲ノ沢線開設工事を九月九日に発注したところです。

水道事業については、基幹的施設改良事業として一工区から四工区を、また補償工事を農業集落排水事業と連動しながら実施しているところです。

また大琴水道で、取水井、配水池、圧力調整弁、滅菌室、配水管工事等を実施しています。

農業集落排水事業の加入率は平成十年度実施分で三一・八パーセントで、前回六月報告の二八・五パーセントから少しずつ増えています。

平成十年度実施地区の舗装工事は、県道横手東由利線の養田橋から寺田会館について、県と再協議の結果、四百十五メートルを県で実施、損傷が著しい町民プール及び有鄰館前の舗装を

本町転作率一〇一達成
県の持ち越しは二万トン

稲作は八月二十七日発表の概況では中央地区の作況指数が一〇五、県平均は一〇四です。

生産調整秋確認を九月七日に実施、速報値で転作面積三百五十八ヘクタールで、転作率は一〇一パーセントを達成しました。

自主流通米の八〇九年産は販売が完了し、十年産の持ち越し在庫は全国で十八万九千トン、秋田県は二万二千トンで全国一の持ち越しをかかえることとなります。

消費者価格の大幅な下落と米作付け適地の北上、また整粒、食味対応のおくれと販売戦略不足が原因と思われます。

青果物、子牛ともに
売り上げ増に

本年度の青果物は、馬鈴薯が大幅な作付け増により伸長、いんげんも出荷数量の増加により売り上げが増加。

ミニトマトは前年並の作付けで出荷数量、金額は微増となっています。

十一年度の子牛の販売は、頭数、金額ともほぼ前年度並で順調に推移しています。

一般質問

(一部抜粋)

鈴木和夫議員

■農家、農業者の借入金について
利子補給支援制度などの考えは。

□現状を心配している。利子補給では限度があり、元金も含めた融資額全額をどうするか考えるべき。今後大きな問題として重く考えたい。

■町道坪倉線は車の利用が多い。道路拡幅改良の考えは。

□単独事業では難しい。新しいルートの可能性なども考慮しながら考えたい。当面、冬期間の除雪はブルドーザーからロータリー吹き上げにしたい。

■地元商店、商業の活性化のため地域振興券のような商品券の検討を。

□JA、ぷれっそなどでは実施している。地域振興券の効果のほどを一考する状況にあるが、町としての実施予定は今のところない。

■小、中学校の給食で使用する

食器の安全性は大丈夫か。

□すべての学校で安全なものを使用している。今後は環境ホルモンの危険性など安全性の面を考え、強化磁器、ガラスを利用する方向性にある。

■チャイルドシートの義務化に備え、購入費などに助成を。

□取り組んでいる町村もあるが、価格も安くなりつつある。貸出についても社会的変化もあり、利用者が少ないのでは。

■大琴小学校の統合についての考えを。

□町長…地域、保護者の意向なども配慮しながら対応していくべき事項である。時期を逸しないように考えていきたい。

□教育長…議会、委員会などの積極的な活動もあり、大きな動きに盛り上げてほしい。

佐々木長円議員

■米価の下落など農業は大変な状況にあるが、どうリーダーシップをとっていくのか。

□基盤整備については他町村に負けない整備を行っているが、価格のな面については心配して

いる。稲作だけの状況を見るのではなく、産業の一つとしての位置付けで考えていきたい。

■明るく元気の出る町を標榜しているが今後の方向性は。

□町づくりの原点は安心して喜んで住むことができる町づくりにある。四本の柱を基本に施策の充実に取り組んでいきたい。

■介護保険に対する一市十町の準備状況は大丈夫か。

□広域組合として順調に進んでいる。単独でないために様々な意見が反映できることが、結果的によい結果につながると思っている。

■四月からの介護保険導入が福祉の後退につながらないよう望みたい。

□今後想定される問題を考えながら、福祉の後退にならないように考えていきたい。

■分譲宅地は宣伝不足ではないか。もっと積極的に進め促進すべきでは。

□町民の町外流出を最低限抑

小松助役が再任3期目に

九月定例議会には、十三議案が提案され、全案件原案どおり可決されました。主なものは次のとおり。

十年度決算を認定 歳入総額四十九億円余り

歳入総額四十九億八千三十一万円、歳出総額四十八億五千五百二十五万二千円の平成十年度一般会計決算ほか七特別会計決算を認定しました。

(決算概要は八頁に掲載)

平成十一年度一般会計予算 四千七百万円余り追加

平成十一年度一般会計予算に四千七百三十一万五千円を追加し、総額を四十三億九千四百七十四万八千円としました。主なものは▽児童福祉施設費一千十一万三千円▽公共土木施設災害復旧費一千八百二十三万五千円など。

平成十一年度国民健康保険事業勘定特別会計は予算組み替えを行いました。老人保健医療事業特別会計に九百六十万四千円を追加、総額を六億九千九百五十万五千円に、特別養護老人ホーム東光苑特別会計に一千五十九万五千円を追加、総額を二億七千七百五十八万七千円としました。

小松久男助役 再任され三期目に

任期満了に伴う助役の選任では、小松久男氏の再任に同意し

えたいという考えでもあり、現在積極的に関外への宣伝はしていない。町の宅地という考えで長期的に考えたい。

分譲宅地の雪への対応は。

□現在二世帯への分譲ということもあり雪捨て場の心配はないが、将来的に世帯が増えれば流雪溝の準備もしている。

■今後、各地区分譲地建設の考えは。

□次は老方地区である。

■文化財保護について今後の取

り組みは。

□ハードからソフトへの時代。文化財もソフトとしてどういう位置付けが出来るのか考えていきたい。

小野 健議員

■介護保険に対する考えと広域組合が抱える問題点はないのか。

□保険料の徴収方法などいろいろと心配しているが、その時点での最善策をと思う。

広域組合でも各問題点の整理が終わらいつつあり、今後意見を

出し合うことでよりよい仕組みがで上がるのではないかと。

■政府は「過剰分の米を主食用以外に処理する仕組み」を検討しているようだが、政府の農業に対するこの施策をどう考えるか。

□一つの国施策としては仕方がないかもしれないが、考え方としては大変なこと。農業について町として百パーセントの対応ができないことに苛立ちを感じる。よりよい農業振興策をと思う。



小松久男助役

ました。

小松氏は六十六歳。町役場主幹兼建設課長を経て、平成三年十月から在任、現在三期目。選任月日は十月一日付けで、任期は四年です。

小松正武氏 教育委員に再任



小松正武教育委員

任期満了に伴う町教育委員の任命では、小松正武氏(五四歳・高戸屋)の再任に同意しました。

任期は十月二十日から四年間です。

少子化対策に 町で基金を設置

本町における少子化対策の、なお一層の普及促進を図るための事業に要する経費の財源に充てるため、東由利町少子化対策基金を設置しました。

ただし、この条例は平成十四年三月三十一日限りで効力を失うものです。

林道仲ノ沢線 契約を締結

林業地域総合整備事業による仲ノ沢線の工事請負契約を、五千三百五十五万円で有限会社大庭建設と締結しました。



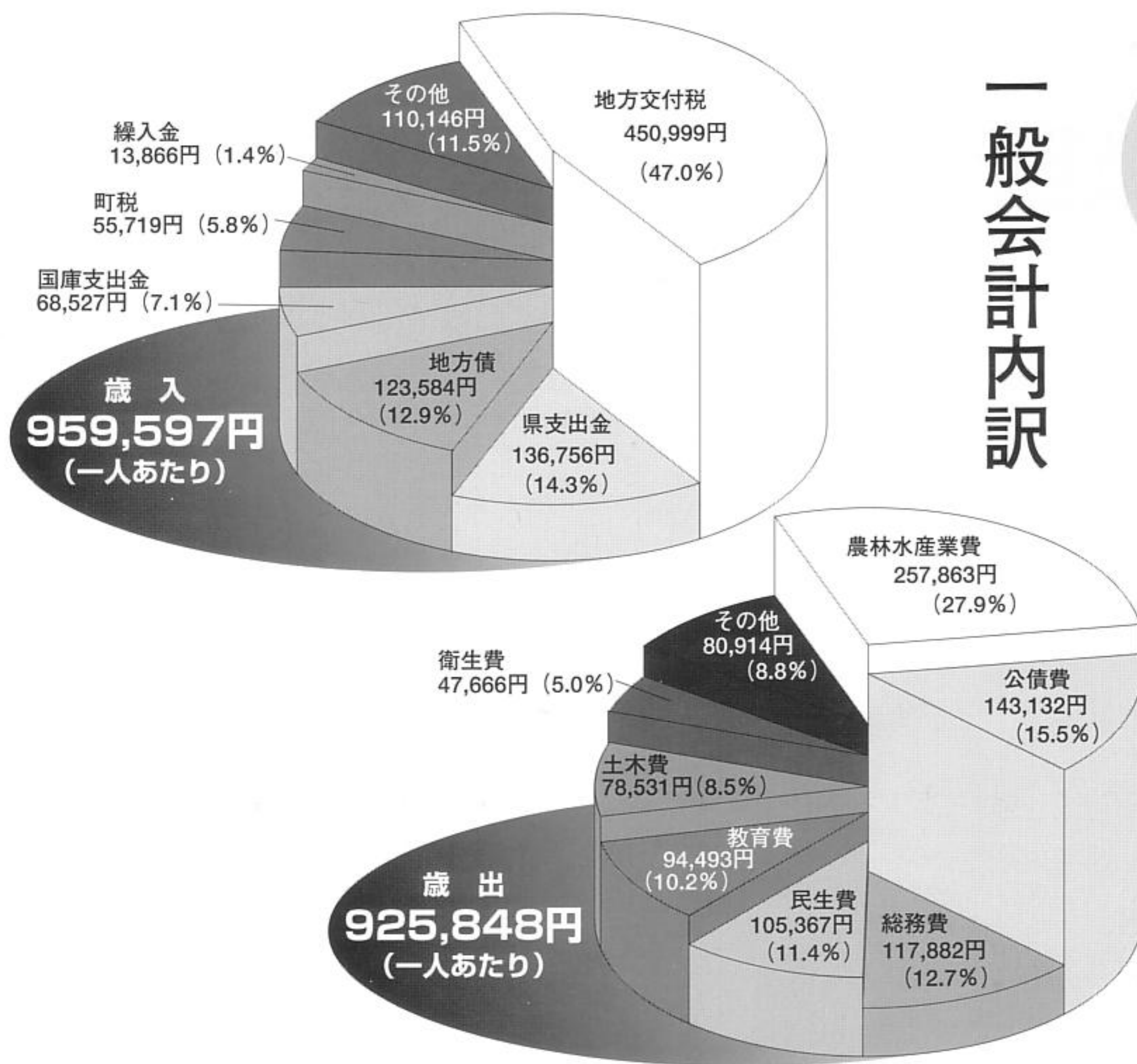
▲伸びる町づくりのために

実質収支で一億四千八百万円の黒字

一般会計

町の人口は
3月末現在
5,190人とした

一般会計内訳



一般会計決算額は、歳入総額が四十九億八千三十一万円で、前年度に比べ一億六千五百九十一万一千円（三・四パーセント）の増、歳出総額が四十八億五千五百五十二万二千円で一億九千八百五十四万五千円（四・三パーセント）の増となり、実質収支では一億四千八百七十九万二千円の黒字となりました。

歳入においては、町財政の基盤となる町税が歳入総額の五・八パーセントにあたる二億八千九百十八万二千円で、納税に対する町民のご理解とご協力に敬意を表します。

地方交付税は、二十三億四千六十八万五千円で前年度より七千二百二十二万七千円（三・一パーセント）増となりました。

その他、国の経済対策等に伴う補助事業の増加により国、県補助金が伸び、前年度町債の繰上償還のために行った減債基金の取り崩しがなかったこと等により、繰入金が大幅に減少しています。

基金では、財政調整基金を七千万円取り崩し財源調整に充てる一方、七千六百七十八万八千円を積み立て、将来の財政需要に備えました。

また、町債償還のために七千八百八十五万五千円を積み立てた他、当面の課題である新庁舎の建設に向けて五千二百二十四万二千円を積み増し、現在高を四億六千七百

一万六千円としました。

歳出では、人件費が前年度に比較し二千六百三十六万九千円（三・八パーセント）増加、また扶助費が保育所運営費の増等により三千八百四十九万七千円（二六・六パーセント）増加しました。

公債費は一五・六パーセントの減となっていますが、要因は前年度二億五千万円の繰り上げ償還を行ったためで、繰上償還分を除く通常ベースと比較すると、五千三百七十六万六千円（八・五パーセント）伸びています。

これに物件費、維持補修費、補助費等を加えた経常的経費は年々増加し、経常収支比率は八〇パーセントを超えました。

投資的経費では、当面する施策の積極的な推進を図りました。観光レクリエーション基地としての八塩いこいの森整備、農地の保全と農林業振興の土台となる生産基盤の整備、定住促進を狙った分譲宅地造成、町営住宅の建設、町民が安心して住める町づくりのための消防防災設備整備や除雪車の更新、上下水道整備等町民生活に密着した施策を優先して実施しました。また、町民プール建設は、町民の体力づくりと共に世代を超えた交流の場としての活用が期待されます。

町の台所は一人あたり

玉米財産区が 年度末で廃止

特別会計の内訳

(単位：千円)

区 分	歳入総額	歳出総額	差 引
国民健康保険事業 勘定特別会計	517,665	462,355	55,310
老人保健医療 事業特別会計	635,857	635,857	0
簡易水道事業 特別会計	374,088	356,189	17,899
農業集落排水事業 特別会計	744,379	744,373	6
特別養護老人ホーム 東光苑特別会計	251,997	248,608	3,389
大平スキー場運営費 特別会計	17,984	17,952	32
玉 米 財 産 区 特 別 会 計	918	467	451

歳出 (単位：千円)

4,805,152

農林水産業費
1,338,309

公債費
742,856

総務費
611,806

民生費
546,854

教育費
490,420

土木費 407,575

衛生費 247,388

その他
419,944

歳入 (単位：千円)

4,980,310

地方交付税
2,340,685

県支出金
709,765

地方債
641,400

国庫支出金 355,655

町税 289,182

繰入金 71,964

その他 571,659

▼国民健康保険事業勘定特別会計

前年度に比較して歳入総額が五億一千七百六十六万五千円、歳出総額が四億六千二百三十五万五千円で五千五百三十一万円の黒字となりました。

歳入では、保険税が前年度より九・六パーセント減の一億五千八百八十四万四千円、国庫支出金が二億二千四百二十六万九千円となっています。

歳出では、保険給付費が前年度比四・五パーセント減の二億九千六百八十一万五千円で全体の六四・二パーセント、老人保健拠出金が一億三千七百三十万九千円で二九・七パーセントとなっています。

減要因は、被保険者数の減少によるところが大きいと思われます。

▼老人保健医療事業特別会計

歳入歳出共に六億三千五百八十五万七千円であり、前年度に比較して四・二パーセントの減となっています。

歳入では支払基金交付金が前年度より減少し、一般会計繰入金が増加しています。

歳出では、医療諸費が前年度より減少していますが、今後高齢者の増加に伴い、医療費が増加していくことが予想されます。

▼簡易水道事業特別会計

歳入総額が三億七千四百八十八万九千円、形式収支で一億七千八百九十九万九千円、実質収支で一億三千三百三十万二千円の黒字となりました。

三万二千円の黒字となりました。

歳入では、国庫補助金、町債が大きく伸びています。

歳出では基幹的施設改良事業に加え、大平水道施設整備事業にも着手し順調に進捗しています。

▼農業集落排水事業特別会計

歳入総額七億四千四百三十七万九千円、歳出総額七億四千四百三十七万三千円で、歳入歳出ともに〇・九パーセントの増となっています。

▼特別養護老人ホーム東光苑特別会計

歳入総額で前年度より一・六パーセント減の二億五千九百九十九万七千円、歳出総額で〇・八パーセント増の二億四千八百六十八万八千円となりました。

歳入では繰越金が前年度に比較して五七・七パーセント減少したのに対し、一般会計繰入金が七・三パーセント増加しています。

▼大平スキー場運営費特別会計

歳入総額が一億七千九十八万四千円、歳出総額が一億七千九十五万二千円で歳入、歳出共にほぼ前年度並みの決算額となりました。

▼玉米財産区特別会計

歳入総額が九十一万八千円、歳出総額が四十六万七千円で四十五万一千円の黒字となりました。なお玉米財産区特別会計は年度末をもって廃止されます。

夫婦で精一杯過ぎした半世紀



たくさんの思い出話に花

平成11年度合同金婚式

九月十日、有鄰館を会場に今年結婚五十周年を迎えた三十六組のご夫婦を対象にした合同金婚式が行われました。

今回の対象夫婦は昭和二十四年に結婚された皆さんです。式には招待したご夫婦のうち三十一組が出席しました。

式に先が行われた記念写真撮影では、「長年連れ添ったが、この日二人そろって初めて写真を撮影した」というご夫婦も多くいらっしゃり、戦後、混乱した社会状況の中で精一杯生きてきたご夫婦の歩みを感じられました。



▲阿部幸悦町長から金婚ご夫婦の皆さんに祝い状

した。

式典ではまず阿部幸悦町長が、ご夫婦の半世紀に及ぶ歳月をねぎらいながら「ますます発展する町づくりのために今後も大きな力を。次はダイヤモンド婚でお祝いを」とあいさつ。

また阿部副議長が「これから後輩であるわれわれに指導していただきたい」とお祝いの言葉を述べました。

その後阿部町長から一組一組に祝い状と記念の夫婦箸セットが手渡されました。感謝状を受け取ったご夫婦の皆さんは、「永年に渡り相睦み心身ともに円満な家庭をつくり、町の発展に寄与されました」という文面をかみしめながら、共に過ごした五十年の歳月と様々な思い出を振り返り、感慨深げな様子でした。

祝宴では、町民謡同好会の皆さんによるおめでたい唄が披露、場内に響き渡る中、ご夫婦同士、知人同士で杯を酌み交わしながら懐かしい思い出ばなしに興じていました。

和やかな雰囲気だった祝宴。最後は出演者全員による万歳三唱で閉じられました。



▲懐かしい思い出話に花が咲いた

金婚おめでとうございます

金婚夫婦の皆さん

年齢は平成十一年九月一日で換算

(敬称略)

佐藤清 (79) ヨシノ (74) 「葎沢」
横山丑太郎 (74) ケイ子 (67) 「泡ノ渚」
横山松雄 (74) ハナ (79) 「泡ノ渚」
小松宇一郎 (72) テル (71) 「須郷田」
嶽石義助 (73) トシ (73) 「田代」
佐藤清隆 (68) ヨシ子 (71) 「石高」
小松與惣吉 (74) キエ (70) 「松柴」
小松薫 (73) 光子 (69) 「山崎」
小松正次 (74) 八重 (73) 「下小路」

介護保険情報

第三回

介護サービス計画

要介護度に応じてサービスを選びます 自己負担額は費用の一割です

要支援／要介護と認定された人は、要介護度によって決められている限度額内であれば、かかった費用の一割を利用料として支払うだけで、サービスを利用できます。その際、どんなサービスを利用するかという「介護サービス計画（ケアプラン）」を作ることが必要です。

一 介護サービス計画（ケアプラン）を作成

●ケアプラン作成を依頼します

町、在宅介護支援センター、サービス提供機関などに、被保険者証を添えて申し込みます。

介護支援専門員（ケアマネージャー）が本人や家族と話し合い、サービス内容や利用回数といったケアプランを作り、サービス利用票に記入します。

●サービス利用票を受け取ります

サービス票には、利用するサービスの種類や利用機関、曜日や時間帯が記入されています。

二 サービスを利用

要介護度に応じたサービス事例

（通所サービスに重点を置いた場合の一例）

■要支援・週2回の通所リハビリテーション、または週2回の訪問介護など～6万4千円／月

■要介護1・週3回の訪問介護＋週1回の訪問介護＋週2回の通所リハビリテーションなど～17万円／月

■要介護2・週3回の訪問介護＋週1回の訪問看護＋週3回の通所リハビリテーションなど～20万1千円／月

■要介護3・週2回の訪問介護＋週7回の巡回介護＋週1回の訪問看護＋週3回の通所リハビリテーションなど～27万4千円／月

■要介護4・週6回の訪問介護＋週7回の巡回介護＋週2回の訪問看護＋週1回の通所リハビリテーションなど～31万3千円／月

■要介護5・週5回の訪問介護＋週14回の巡回介護＋週2回の訪問看護＋週1回の通所リハビリテーションなど～36万8千円／月

※平均利用額は、平成10年度の見込み価格

●サービス提供機関にサービス票と被保険者証を提示し、ケアプランにもとづきサービスを利用します

利用者は利用したサービス費用の一割を負担します。※施設サービスを利用する場合、食事代なども自己負担となります。

●費用の一割を負担します

利用者は利用したサービス費用の一割を負担します。※施設サービスを利用する場合、食事代なども自己負担となります。

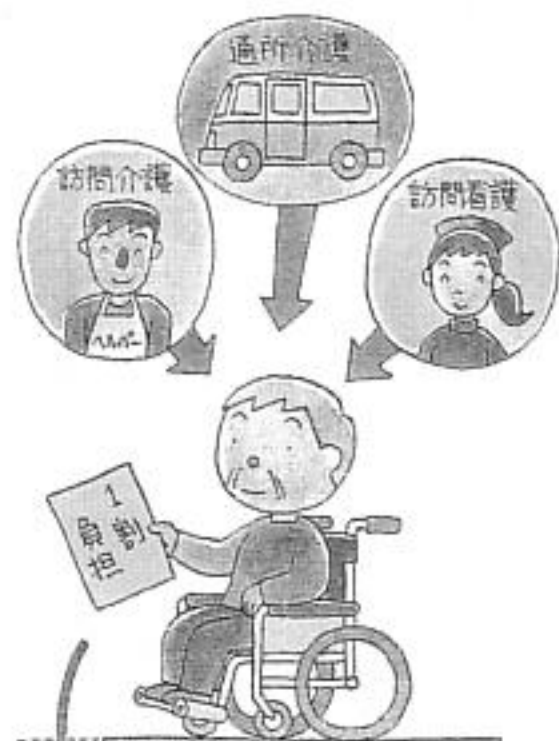
▼限度額を超えてサービスを利用したときには

介護サービスは、要介護度に応じてサービス費用の限度額が決められています。限度額の範囲内でサービスを利用すると自己負担額は一割ですが、限度額を超えてサービスを利用した場合には、超えた分の全額が自己負担となります。

▼自己負担額が高額になったときには

被保険者がサービスを利用した際に支払う自己負担額（二割）が著しく高額になった場合には、一定額を超えた分（基本は、三万七千二百円、町民税世帯非課税世帯は二万四千六百円、老齢福祉年金受給者や生活保護受給者は一万五千元）については、申請により町から高額介護サービス費が支給されます。

問い合わせは町福祉課まで（☎六九一二二一八）



例えば…
（要介護2）で1か月のサービス利用額が18万円となったとき
 $18万円 \times 0.1 = 1万8,000円$
自己負担は1万8,000円となります

小松十郎 (80) メサコ (79) 「下小路」	宮塚昭三 (71) 成子 (69) 「新町」	畠山満康 (71) キワ (69) 「上通」	小野政次 (72) チエ子 (70) 「下通」	小松忠正 (76) 妙子 (72) 「下通」	高橋慶一 (74) タカ (70) 「下通」	小野弘 (73) 麗子 (69) 「下通」	畠山清 (77) キミ (72) 「下通」	長谷山房雄 (74) ミエ (73) 「下通」	小松光一 (72) 利子 (70) 「寺田」	菊池寅藏 (72) イサ子 (68) 「祝沢」	小笠原清一郎 (78) ナツエ (72) 「祝沢」	小野房吉 (73) チャ (70) 「上里」	小野茂二 (68) キヨ (67) 「横渡」	大庭光清 (74) サト子 (71) 「蔵」	齋藤幸益 (82) ミツ子 (74) 「島」	遠藤眞吉 (70) イセ (73) 「新処」	阿部六平 (68) フクミ (70) 「小倉」	小野長光 (72) ヒサ (68) 「宿」	遠藤次雄 (75) トミ (71) 「宿」	佐々木一郎 (73) フミ子 (70) 「大琴」	佐々木松志 (72) ヒサ子 (69) 「大琴」	鈴木國義 (73) ハルミ (73) 「大琴」	佐々木昭二郎 (72) スズエ (66) 「大台」	阿部真一郎 (74) アヤ子 (73) 「沼」	鈴木憲雄 (74) 刀 (70) 「船木」	阿部初三 (73) レエ (74) 「杉森」
--------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	-----------------------	-----------------------	-------------------------	------------------------	-------------------------	---------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------	-----------------------	-----------------------	--------------------------	--------------------------	-------------------------	---------------------------	-------------------------	-----------------------	------------------------

全県から選りすぐりの牛集まる

第87回 全県畜産共進会

第八十七回秋田県畜産共進会が九月五日に河辺町の県中央家畜市場で開かれました。今回の県共進会は、二年振りの開催になりました。

共進会には、県内各畜産農家自慢の肉用牛、乳用牛合計九十四頭が、また本町からは肉用牛七頭、乳用牛一頭が出陳されました。

審査会では、個体審査、比較審査を行い、審査終了後に家畜毎の審査委員による上位家畜等を対象にした審査解説が行われました。

審査中は真剣な審査員のまなざしに畜産農家の皆さんは緊張の面持ちでした。

県共進会は秋田県一円から各地域予選を経た優秀な家畜が一同に集まって、改良の成果を競い確認しながらお互いに研究する場にしよう、という目的で行われているものです。

家畜の改良を進める場合、家畜農家の皆さんはそれぞれの家畜毎に具体的な改良目標を定め育てるわけですが、この畜産共進会はその結果を専門の審査委員が審査すること、改良の成果を客観的に知ると同時にその結果をもとに今後の改良の方向性を検討する機会にもなっています。

県共進会の歴史は古く、明治十四年に明治天皇をお迎えして、秋田市八橋で第一回秋田県産馬共進会として開催されたのが始まりです。第二次世界大戦後、各家畜を網羅した総合共進会にかわり、今回で八十七回を数えます。

審査の結果、本町関連の部門別優等賞には肉用牛黒毛和種部門若雌十四、十七カ月で「きたひめ」（小野長兵衛／宿）、同部門若雌十七、二十カ月で「たかふく」（高沢忠／葎沢）、同部門若雌父系牛群二十、二十八カ月で東由利町和牛改良組合「たまえ」（小野イマ子／高屋）「いとひめ」（高橋信子／須郷）「みつふく」（武田キワ子／須郷）がそれぞれ選ばれています。

授賞者を代表して高沢さんには、優勝旗が授与されました。



▲高沢忠さんの「たかふく」

審査講評では金義郎県畜産試験場長が「黒毛和種若牛、成雌牛ともに資質、発育は良好だった。しかし、全体的に栄養がよいための順位を下げた牛も多かった」などと講評を述べました。

由利牛の里として名高い東由利町。全県にその名をアピールすることができたようです。

なお、今回の共進会によせて武田キワ子さんより寄稿をいただきました。（十八頁に掲載）



▲和牛改良組合の牛

▲小野長兵衛さんの「きたひめ」

第5話「県共(秋田県畜産共進会)回顧」

鈴木龍太郎・文

今年の県共に東由利牛の陣中見舞にゆき、主人によって奇麗に磨かれた牛たちを眺めていたとが思い出された。

▼テント

県共では牛舎は準備されているが人様の宿舎はなく、テント

は必要不可欠のものである。昭和六十二年頃と思われるがそれまでのテントは古くなり、床も地面にコンパネを敷いただけで座り心地や寝心地が悪かったため役場の畜産係(当時、伊東正志係長と小松慶悦さん)が上司に相談されてテントと、高目の板床を新調してくれた。

ところがこのテント雨が降ったら縫い目から水が漏れて布団等を濡らしてしまった。応急処置としてみんなでテントの上にビニルシートをかけていたら誰かが「このテントは晴天用で雨天用でない」といったので大笑いした。

また、いつの年だったか他町村より早く宿泊前にテントを張り「どうだ、東由利は準備が早いだろう」と心ひそかに自慢していたら、夜の嵐に吹き飛ばされ「準備の早いのも考えものだナ」とぼやきながら跡片付けをしたこともある。

その後テントは修理されて翌年から雨漏れはなし、板床は今

年も使われていた。

▼賄方

もとは県共出場となれば三泊四日間自炊しなければならなかった。東由利では平成四年の打ち合わせ会で、出場者には牛に専念していただくため、賄は役場の産業課(当時菅原賢治課長)が引受けることになり、炊事主任を石高の横山トシさんにお願いした。そのときの話を横山さんに聞いたことがある。

「役場の孝一郎さんに頼まれたとき迷ったがお世話になってる役場からの話であり、又家でも牛を共進会に出したこともあるので引き受けたが、いざとなるとまどうことが多かった。特に水道が遠くて困った。だが水汲み、米とぎ等重いものを運ぶときは男たちが進んでやってくれた。炊事も畠山和栄さん(石高)、畑山ヨシさん(土場沢)、阿部雪子さん(蔵)佐藤トシヨさん(葎沢)や名前はわからないが若い人たちにも手伝ってもらい助かった。

一番の思い出は平成四年に応援団に出すたくさんのおにぎりを作ったことで、私たちでは手が足りず困っていたら見学にきたらしい高橋佳子さん(館合新田)と同行の婦人たちが一緒に握ってくれたときは有難かった。また食材の買いだしに役場の孝一郎さん、一心さん、和広さん、農協の太田さん、吉野さんなどとスーパーへ行ったこともたのしい思い出です」(文責、鈴木)

私は話を聞きながら食事をい

ただいた一人として感謝しつつも母さんの指図でスーパ内を走り回っている若い男性諸氏(なかには昔の若い人)を想像すると笑いが込み上げてきた。横山さんには三年間難儀をかけ、その後仕出し弁当になった。

▼審査場にて一言

◎畠山亮二郎町長(平成元年当時) わが町の牛を見ている審査員の直後で「ウーンこの牛が一番よい牛だな」。振り向いた審査員、町長をみてニヤリ。

◎阿部幸悦町長

審査中の牛の血統を名簿でみて、いつもの透き通る声で「こんな古い系統では改良なんてあったものではない。他県にいくと笑われるよ」。周囲の大勢の観衆一様に頷き「そのとおりだ」との声あり。

◎畠山基保課長

審査員に聞かれもしないのに、なんだかんだと意見をいい観衆のひんしゆくを買っている審査助手に大声で「○○さん、審査は審査員にまかせて助手は黙っていなさい」。観衆一同「ンダ、ンダ」。助手照れくさそうにして以後黙る。

県共にはほかにも思い出がある。会場に着いた途端お産した牛。産気づいて体調を崩した牛。夜の酒宴等々・・・。

過ぎ去った

日々にはたくさん懐かしさと、わずかな哀愁がある。



林業だより

毒きのこ

きのこ狩りシーズンになると毒きのこによる中毒が聞かれます。

全国で毒きのこが知られているのは、約一五〇種あるといわれています。毒きのこかを簡単に見分ける方法はありません。昔からのいい伝えに柄がタテに裂ければ食べられるとか、地味な色のきのこは食べられ、派手な色のきのこには毒があるなどありますが、毒きのこといわれるものも柄がタテに裂けるし、赤い色のきのこでも食べられるものが

あるというように言い伝えは当てになりません。

秋田県内で起きた中毒発生をみると、シイタケやムキタケとの見誤りのツキヨタケ、シメジとの見誤りのクサウラベニタケ、ナラタケやクリタケとの見誤りのニガクリタケのほかキホウキタケ、カキシメジ、ドクササコなどによる中毒があります。

きのこ中毒にならないためには、毒きのこを知ることと確信のないきのこはよく知っている人に聞くか、食べないことです。

(町林業懇話会会長

佐藤恒悦氏)

東由利・成立

区分	頭数	平均体重	平均価格	Kg当単価
去勢	17	298kg	457,985	1,466
雌	9	263kg	352,917	1,286
合計	26	286kg	421,615	1,311

●最高金額 去勢 569,100 北国7の8 福谷1 益美
●最高金額 雌 445,200 北国7の8 高栄 安美金

九月家畜市場

木材共販市況

(平成十一年九月・平均価格)
四五年生から五五年生

径級	単価(石)	備考
直材30cm上	—	
24~28cm	5,100円	
14~22cm	5,000円	
13cm下	2,700円	
曲り材	2,000~2,800円	

製品市況を反映し単価は弱含み。全般に枚数も少なく完全な当用買い。依然製品市況が厳しい状態のため先行き不透明。

自分だけの手作り作品に歓声



▲八塩小児童たちの作品も焼き上がった

第23回

全県野焼きを楽しむつどい

九月二十日、第二十三回全県野焼きを楽しむつどいが八塩いこいの森で行われました。今年も講師に大塚三郎氏を迎え、県内陶芸愛好者グループ、八塩小学校児童など関係者百三十余名が参加、野焼きによる作品づくりを楽しみました。毎年雨にたられるつどいですが、今年は幸い小雨程度の空模様で無事野焼きを行うことができました。

つどいにさきがけ、九月二日に八塩小学校で土器製作が行われました。同小学校の参加は今回で三回目。児童に物を作る楽しさを与えたいと同小が力をい



▲もうもうとたちのぼる煙



▲9月2日八塩小学校で土器製作

野焼きは野外で古代の手法によって粘土で作った土器を焼くものです。

手順はまず、地面にわらを幅約二メートル、長さ二十メートルほどの広さに敷き詰めます。その上にあらかじめ素焼きをした土器を並べます。さらにわら、うすい板をのせて火を点火します。その後、刈りたてのカヤをかぶせ全体を厚く覆います。これにより臨時の窯をつくり熱で土器を焼くものです。

焼き上がるまでの約四時間、温度を一定に保つ必要があるため、こまめにカヤをかぶせて火势を調整します。これは土器が割れないようにするためです。

午前十時三十分頃点火、昼食をはさんで午後二時三十分頃焼き上がった作品が灰の中から出てきました。参加者の皆さんは自分の作品が出る度に「うまく焼き上がっている」「割れなくてよかった」などの歓声をあげていました。

世界にたった一つ自分だけの作品だけに、熱が冷めるのも待ちきれない様子。まだ熱が残る土器を大切に扱っていました。

あなたの個性をお寄せ下さい

東由利町出身の童話絵本作家である高橋宏幸氏の業績を顕彰し、絵本と児童文学の振興、子どもたちの読書意欲の高揚を目的に創設しました「高橋宏幸賞童話（感想文・感想画）秋田県コンクール」には、毎年、伸び伸びとした素晴らしい作品が寄せられています。

昨年度は感想文、感想画など合計で三千七百五十四点もの応募がありました。

平成八年度が二千六百七十八点、平成九年度が三千百三十三点と、毎年確実に応募総数が増えていきます。

八回を数える本年度も、秋田県全域の幼稚園、保育園（所）、小学校の児童を対象に童話を読んだの感想文と感想画を募る童話コンクールを実施します。

応募要項については次の通りです。

第八回高橋宏幸賞・童話（感想文・感想画）秋田県コンクールは12月19日開催予定

■応募要項■
童話を読んで、感想文または、感想画を

書いてください。※高橋宏幸先生の作品以外も応募対象となります。

▼童話の感想文

応募資格／小学生
応募規定／B4判原稿用紙（四〇〇字詰）縦書き三枚以内

▼童話の感想画

応募資格／幼児（四歳以上）、小学生
応募規定／四つ切り画用紙。紙の種類は特に限定しない。画材は自由。本のさし絵、カット等を写したものは対象外。

▼応募締切日

平成十一年十一月十九日（金）

▼応募方法

作品応募票を添付のこと。

▼表彰

感想文、感想画の幼児、小学生ごとに賞状と商品。表彰式は十二月十九日（日）を予定。

▼選考方法

高橋宏幸賞選考委員会で行う。

▼その他

応募された作品は原則として返却不可。

なお詳細については、東由利町教育委員会「高橋宏幸賞コンクール」係「☎〇一八四（六九）二三一一」まで。

行政相談が行われます

十月十七日～二十三日まで秋の行政相談週間となっております。次により町内二カ所で行政相談が行われます。

国、県、町の施策など、行政に関する相談（意見や要望等でも可）についてはこの機会をご利用ください。相談は、無料で秘密は厳守されます。

◎十月十九日（火）

午後一時～四時 老方館

◎十月二十三日（土）

午後一時～四時 大蔵館

▼行政相談員 畠山昭雄さん

（歳・☎六九―三〇三六）

10月18日は「統計の日」

統計の重要性に対する国民一般の関心と理解を深め、統計調査に対する国民のより一層の協力を推進するため、「統計の日」を設けています。

最近では統計調査を円滑に実施するための環境が厳しくなってきました。しかし、統計調査は、国の施策をより効果的に実施するための基礎資料なのです。もちろん調査するに当たっては、皆さんのプライバシーはしっかりと守られています。行政機関側も少しでも皆さんの負担が減るように努力していますので、統計調査にご協力を。

ごみにしないでリサイクル

「きちんと」「分別」が基本です

紙やガラスびん、缶、プラスチックなどはリサイクルによって新しい製品に生まれ変わることが出来ます。ほかのごみと一緒にしないできちんと分別してください。

■紙

現在、牛乳パックなど紙パックのリサイクルが行われていますが、その他の紙製容器包装についても、来年四月から分別収集とリサイクルが始まります。

その他の紙製容器包装とは、段ボール製の容器包装、お菓子の紙箱（中仕切りも含む）、割箸の袋、小売店の包装紙・紙袋など。

紙製の容器包装は、トイレ用トーパーなどの紙製品にリサイクルされるほか、梱包材や断熱材、固形燃料などに生まれ変わります。

■プラスチック

飲料品や調味料、洗剤などのボトルとして利用されているペットボトル。リサイクルによって、文房具や包装材、コンテナなどのプラスチック製品のほか、シャツやエプロンなどの衣類にも再生されています。

■飲料缶

リサイクルの対象になっているのは、スチール製とアルミ製の飲料缶です。リサイクルによって、スチール缶は建設資材などに、アルミ缶は新しいアルミ缶や車のエンジン・ボディなどに生まれ変わります。

■ガラスびん

ビールびんや一升びんなどのリターナブルびんは、そのままの形で洗って繰り返し使用されます。また、そのほかのガラスびんをつくる原料になったり、道路舗装や建築材料になったりしてリサイクルされます。





▲東タクシーが導入した新型タクシー

福祉の基本は一人一人の優しさから。この度、東タクシーが身体の不自由な方のためにと新型車を導入しました。社会全体が介護の流れにある中、何かできることはないかと同社の谷口圭一さんが考えたもの。「車イスの方を乗せる機会もあり、少しでもお客さんを楽に乗せる方法はないかと様々な車から探しました」とのこと。ドアが約九十度開閉、また椅子が降りしやすいうように回転することなどが特徴です。今後の同社の取り組みが期待されます。

東タクシーの新型車

身体に優しいタクシー導入



▲町長と新町自治会との話し合いが行われた

九月十六日、平成十一年度新町自治会地域づくりフォーラムが新町会館で行われ、新町自治会の皆さん、阿部幸悦町長、課長等四十余名が出席、意見を交換しました。座談会では、事前に町に提出された要望事項を関係課長が説明、理解を求めました。その後も直接町と話し合う機会ということもあり、率直な意見が寄せられました。町では各自治会の皆さんと直接意見交換を図っています。座談会を希望される自治会は町企画課（六六九―二二二三）まで。

町長と直接意見を交換

新町地域づくりフォーラム



▲雨の中、競技に全力で取り組んだ皆さん

九月一日、郡市ゲートボール大会が町民グラウンドを会場に行われました。当日参加したのは郡内のゲートボールチーム四十団体、三百余名。この大会は郡市としての大会で、今回、本町を会場に行われたものです。当日はあいにくの雨降りしきる中で、競技というところで、グラウンドの状態は最悪。ボールを打つたびにたまった水に足を取られて日頃の実力が発揮できないような状態でした。参加者たちは悪い条件の中においても、全力を尽くしていました。

郡市ゲートボール大会

最悪の条件で全力尽くす



▲入苑者は児童と風船バレーを楽しんだ

当日は児童による歌と踊りの発表のほか、風船バレーを入苑者と一緒に行いました。風船バレーでは入苑者、児童たちの楽しげな声が飛び交っていました。

社会福祉への関心深める

大琴小児童東光苑訪問

町のあっち、こっちから



▲それぞれ楽しんだ歩こう会 (写真：畑山スミさん)

小雨模様の中

テレビ塔へ

老方分館歩こう会

九月十九日、毎年恒例の老方分館主催による歩こう会が行われました。当日はあいにくの小雨模様の天候でしたが、参加した約五十名は日ごろの運動不足の解消をとばかり、元氣よくテレビ塔を目指しました。出発から約一時間半後テレビ塔に到着。残念ながらあいにくの雲海で町の景色はよく見えませんでした。が、せめて楽しく食事をと、用意された無料の豚汁、焼き鳥等に舌鼓しばし疲れを忘れ、自分の足で歩いた満足感にひたりました。



▲収穫した野菜を自分たちで料理し味わった

収穫に感謝し野菜味わう

高瀬小野菜パーティー

九月十八日、ドリーム支援事業の一環として高瀬小学校で野菜パーティーが行われました。このパーティーは児童たちが春から行っていた野菜づくりの集大成として、全校児童が野菜を調理、収穫に感謝しながら野菜を味わうというものです。当日は野菜づくりに協力してくれた老人クラブの方々、独り暮らしの老人の皆さんを招待し、共に楽しみました。全員が生きて生きと活躍している姿に招待の皆さんは「最高のぜいたくをもらった」と満足気でした。

遠藤章氏ふるさと講演会

毎年町で行われている文化講演会。今年は10月31日(日)有鄰館において、平成4年度町功労者であり、農学博士である遠藤章氏の講演が予定されています。演題は「故郷を巣立って50年」です。

氏は本町小倉出身。昭和32年東北大学農学部農芸化学科を卒業され、同年三共株式会社に入社、研究室長を経て、昭和54年から東京農工大学農学部(農芸化学科)に移り、教授をつとめられた後、平成9年定年退官、名誉教授に。



▲遠藤章氏

現在、(株)バイオファーム研究所所長、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員。農学博士。

学術論文約200編、出願特許90余件、昭和62年に世界的権威であるウィーランド賞を受賞されています。

大学卒業以来40余年間、微生物を利用する食品と医薬の研究開発に従事し、数多くの優れた研究業績をあげました。なかでも、青かびと紅麹かびから発見したコレステロール低下の特効薬「スタチン」(わが国ではメバロチン、リポパス等の商品名で発売中)はペニシリンと並ぶ「奇蹟の薬」と呼ばれて世界的に高く評価されています。スタチンは100ヶ国以上の国々で、1,000万人以上の患者の治療に用いられて、その年間生産額は(邦貨換算)は一兆円に達するといわれています。

この機会にぜひ貴重なお話を拝聴してみませんか?



▲八塩小五年児童と北磯小児童の交流 (写真：八塩小)

男鹿の北磯小と交流深める

八塩小五年の交流研修

九月十六日、八塩小五年の児童十九人が男鹿市立北磯小学校と交流を行いました。これは八塩小に以前在籍していた山本養護教諭が昨年まで勤務していた関係で実現したもの。同校に到着するまでは若干緊張していた児童たちでしたが、ほのぼのとした出迎え、心のこもった歓迎会などが行われ、あちこちで交流の輪が広がっていました。その後、北磯の海岸で新しい友達と楽しく交流。児童たちは最後まで新しい出会いを楽しんでいました。

東由利文化クラブ

母のやさしい愛情で牛飼いを

九月に行われた県畜産共進会において、肉用牛黒毛和種部門若雌父系牛群二十〜二十八カ月で優等賞を授賞した東由利町和牛改良組合。今回、代表して武田キヲ子さん（須郷）から寄稿していただきました。

共進会をふりかえって

九月四日、五日の二日間わたりに河辺町にて県畜産共進会が開催された。

天候に恵まれ、農協本所前午前十時出発、白沢トンネルを抜け会場まで一時間ちよつとで到着した。他町からの人達もすでに来ている。牛の鳴き声が市場とは違い、一段と緊張感を漂わせる。自分の牛と一緒にまたこの地を踏むことができた喜びがひしひしと込み上げてきた。

みんな牛の居場所作りに一生懸命だ。少しでも早く牛を落ちつかせ、家にいた時のように餌を食べてもらわなければと、いろいろ神経を使う。

審査の順番がきた。みんなのピリピリした落ち着かない顔が目に入ってくる。牛と人が一体となった時こそが最もよい調教がなされることを信じ、三頭があまり格好悪くなく立って待っていた。う祈る気持ちで待っていた。

審査員から思わぬおほめの言葉をいただいた時「よくここまでこられた」との思いで、熱いものがこみあげてきた。

三人が同じ思いだったのは、系統を重視し、少しでもよい物を素牛に残していこうとの思い。それだけに飼育した牛が共進会で父系群区セット出陳ということ、兄弟共にこのような栄えあるすばらしい賞をいただくことができたことは、私にとって最高の喜びだった。

私は牛を育てていく上でのライバル意識は当然あっていいと思う。またその次の集まりの時に、自分のやってみたことで「オレはこういうことをやってみたら、こんなよいことがあった」と思えることがあったならば話題提供していいと思う。その時にみんなが心を開いて語り合えることができてこそ、牛飼いの仲間作りが意義あるものとなっていくのだと思う。それぞれが何かしら持っている

◆東由利の文芸◆

（せせらぎ句会）

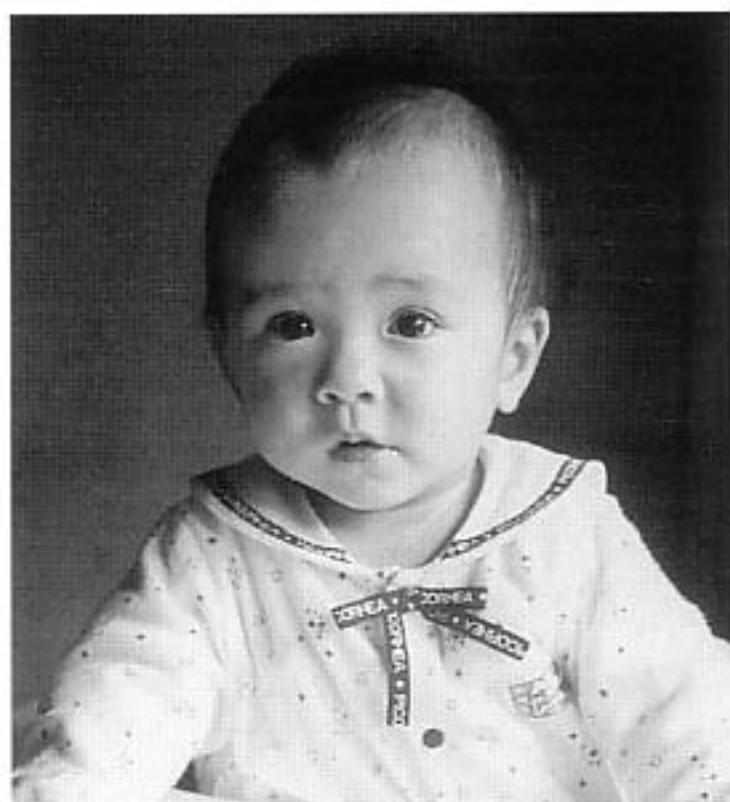
一望の花野の果ては日本海
二の目湯影を沈めし秋の山
海霧押して又立ちあがる波頭
緯度線を越えて岬のぼった跳ぶ
新涼の岬の芝に清め人
秋の瀉写る杉銚天をさす
潮の香の八望台も虫しぐれ
なまはげの踏み通りたる花野かな

下小路 小松 メサ
高戸屋 小松 敏雄
上通 小野石路子
家ノ下 小松 正昭
横小路 小松 文介
久保 小松 良子
蔵新田 小野 貞子
船木 大庭喜右衛門

河口より波の生まるる秋微雨
潮風に幹傾けて新ちぢり
異国人逝けり碑に佇ち秋汀
潮だまり湿めり二の腕秋を知る
萩の風貰う宿路や露天風呂
政争も戦も見えぬ秋の海
鳥海をはるかに浮かす朝の霧
秋立つや水面に写る雲の影
荒磯や旅の館に野分立つ
糯、粳啄みわけし稲雀
金色の穂波に朝の露光る
新涼や孫の寝息の安らけし

五海保 嶽石 レイ
時雨山 吉川 葉子
横小路 宮野源二郎
横渡 高橋ヒデ子
湯出野 佐藤 正義
湯出野 小松 徳蔵
蔵 阿部 澄子
蔵新田 小笠原亮子
小倉 遠藤トミ子
久保 高橋 典三
蔵新田 小笠原トミ
中通 小松順之助

アイドルをさがせ!



畠山幸子ちゃん
(11カ月)
お父さん:繁光さん
お母さん:順子さん
お話し:順子さん

▼名前の由来は「苦労して産まれた子どもなので幸せになるように名付けました」
▼チャームポイントは「二重の大きな目と長いまつげです。おじいちゃん（繁記さん）に似ていると言われます」
▼好きなものは「お子さませんべい、お風呂。朝のテレビ小説すずらん（音楽が流れると聞き入っているようです）」
▼誰になついていますか「やはり日中世話していることからおじいちゃんおばあちゃん（光子さん）のようです」
▼最近のエピソードは「歩行器に乗って自由に歩けるようになった」
▼将来はどんな人になるか「父親は看護婦さんといっています。産まれる時にだいぶお世話になったのでそう思っているようです」

東由利のカップ達健闘す

八月二十八日第四回本荘市由利郡小学生水泳交流会が本荘市市民プールで行われ、本町の児童たちが活躍しました。

この交流会は本荘水泳協会などが主催しているもので、水泳を通じて心身を鍛えようと毎年行われている水泳競技大会です。上位入賞児童も多く今後が期待されます。(以下入賞児童・敬称略)

▼六年男子五〇メートルバタフライ 第二位・小松裕太郎(高瀬小)
▼五年男子五〇メートル自由形 第三位・木島和也(高瀬小)

▼男子二〇〇メートルFR 第三位・高瀬小学校チーム
▼五年男子五〇メートル背泳ぎ 第四位・工藤慎悟(高瀬小)
▼六年男子五〇メートル自由形 第四位・小松裕太郎(高瀬小)
▼六年女子一〇〇メートル自由形 第四位・千葉里菜(高瀬小)
▼男子二〇〇メートルMR 第四位・高瀬小学校チーム
▼五年男子五〇メートルバタフライ 第五位・木島和也(高瀬小)
▼五年男子五〇メートル自由形 第五位・佐藤秀幸(高瀬小)

バレーボール部

夏に向けて

本荘高校下郷分校二年

野球部主将 長谷山智昭さん



九月九日に、三年生が抜けた新チームになって初めての公式戦が水林球場で行われた。雨で一日試合が延びたものの体調はみんな万全だったと思う。しかし初戦ということもあり、緊張と不安の中にみんながいるのは分かった。一回戦、能代工業戦。五対二と

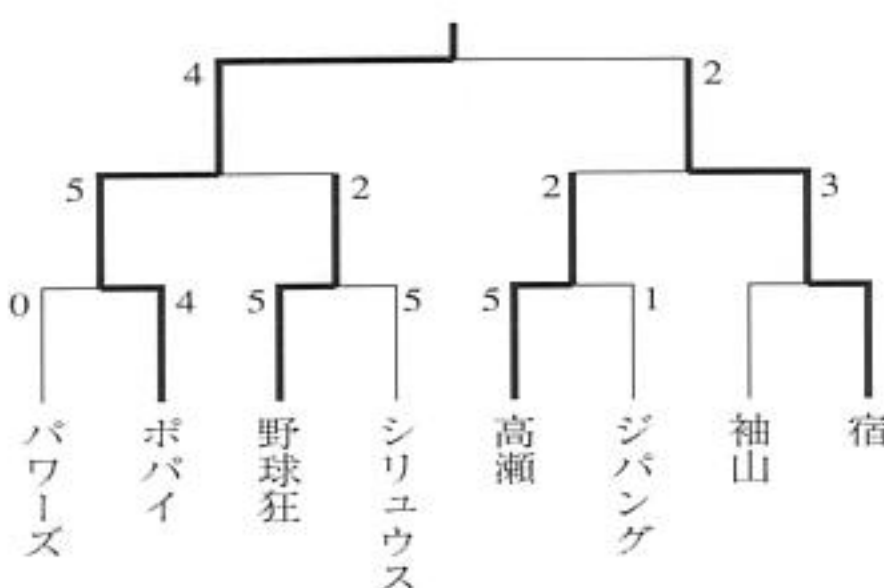
リードしながらも最終回に三点和られてしまい延長戦へ。しかし何とか十回の裏に打線がつながりサヨナラ勝ちをおさめた。一年生が予想以上に頑張ってくれたおかげだと思ふ。

次の日の二回戦、秋田工業戦。一時は逆転したものの、自分たちの野球ができないまま七、八、九回にあわせて五点とられてしまい敗れてしまった。決勝進出は今回も果たせなかった。しかし今後の課題が見えた大事な試合だった。

これからは外で練習できる機会が少なくなる。しかし、基本に返って練習を積み重ねながら、チーム全体のレベルをさらに上げていきたいと思ふ。

そして来年の春、夏の大会では、先輩達の「夢」であった県大会での優勝、奥羽大会への出場を果たしたいと思っている。

第6回町社会人野球秋季選抜大会結果



ふるさと つかしむかし

からど石の大鯉

むかしむかし、石高の村はずれに松吉さんという方がいました。松吉さんは、暇あるごとに家の前を流れている川に出かけ、釣りを楽しんでいました。

よく釣れるのは、川の真ん中ほどに、どっしり座り込んでいるようなからど石といわれている大きな石の側を、淀みになって流れている淵です。村人や釣り好きたちは、からど石の淵と呼んでいるのでした。

魚釣りは三度のご飯より大好きな松吉さんは、淵の主と噂をされている大鯉を釣りあげてみたいもの、今日も朝早くから淵のほとりて釣り糸をたれています。

竿先を見つめて、およそ小半日もたっただろうか、さすが釣り名人といわれる松吉さんです。これまで見たことのない大きな大きな鯉を釣りあげました。大よろこびの松吉さんは、急いで家にとんで帰り、半切りに水を入れて放しましたが、大きな鯉の尾ははみ出るのでした。

この話を聞いた部落の人たちは、大きな鯉見に駆けつけてきました。ほめるやらたまげるやらで、その夜は、遅くまで酒をくみ交し合いました。お客さんも帰り、寝床に入った松吉さんは、うとうとして

いると、裏山の樹々が、ゴゴォーと大風で倒れるような音がします。夢うつつの中に朝を迎えた松吉さんは、裏山を見たが、木の葉一枚落ちていない静けさなのでした。

はては不思議なこともあるものよと、首をかしげながら今日も淵に沿って釣り竿を肩に歩いて

ると、大きなからど石のあたりから昼中というのに何か光るものが見えます。そして、だんだん大きく光るのでした。

川面に突き出た石の影にも、まるで油を流したような光りがきらきらと浮いています。

松吉さんは、



「これは一体どうしたことだろう」と、ひとり言をいいながら、右左見てみると、光りがしだいに大きくなって、松吉さんをすっかり包んでしまい、その光りはだんだん川魚の目に見えてくるのでした。あまりのおそろしさに「助けてくれえ...光りを消してくれえ」と叫んだが、川筋には誰一人としていません。気狂いそうになりながらも、松吉さんはふと思いついて「...淵の主を放してやるう...ごめんしてくれえ」とあやまりました。

すると、まるでうそのように光りがしずまりました。松吉さんは家に帰ってさっそくからど石の淵に大鯉を放してやりました。大鯉は、わが家に帰るように悠々と水そこ深く泳いでいくのでした。

・地下ノ沢長谷山直助氏(故人)の語りより再話

文と絵・石渡力造氏

10月▶データ東由利

〈8/1〜/31〉

住民基本台帳人口 () は前月比

- 男.....2,516人 (+1)
- 女.....2,654人 (+3)
- 計.....5,170人 (+4)
- 世帯数.....1,387戸 (-1)

() は1月からの累計

- ・出生3人(21)・死亡3人(49)
- ・転入8人(56)・転出6人(91)

- 火災出動.....1件(6)
- 救急出動.....7件(90)
- 交通事故.....1件(5)
 - ・死亡.....0人(1)
 - ・傷者.....0人(2)
- 飲酒運転.....0人(1)

東由利

郷土の野草

NO.176

メヒシバ (イネ科)

文・写真 小松忠正氏

日本各地、温、熱帯まで、日当りのよい路傍、畦、あき地などどこにでも生える一年草で、農家などでは始末に困る嫌われものです。



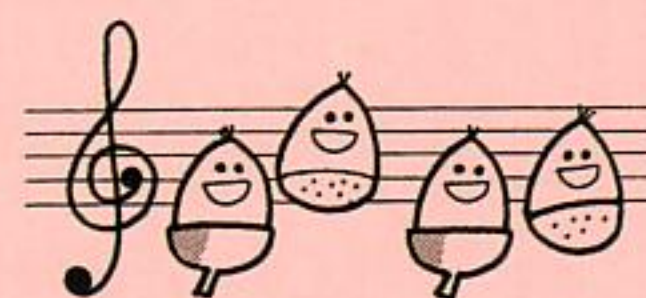
茎の節々からも根を出して伸び、高さも五十センチから七十センチ以上にもなります。八月から十月、七から十本ぐらいの花序の枝を放射状につけます。

和名は雌日芝で、日当りのよい所に生える草で、この草より少し丈夫なオヒシバより全体が細く、やさしい感じがするのでこのようにいわれます。

小穂は皮針形(平たく先が尖った形)です。

10月の行事予定

- 3 奥羽横断駅伝
- 5 永慶保育園40周年記念式典
- 10 東中祭
- 10 町スポーツ祭
(ベタンク+グラウンドゴルフ)
- 17 第7回東由利音楽祭
- 24 東由利中30周年記念式典
- 30~31 秋まつり99
- 31 文化講演会(有鄰館)
講師:遠藤章氏



ほっとひといき!

自分の日常にインターネットが新しく仲間入りして2年あまり。最近ではTVも見なくなりました。TVの情報よりネット上で本当に必要な情報を探す方が確実だし、Eメールはほぼリアルタイムで相手に手紙が届くというところが魅力的です。時々ネット上での犯罪などが世間をにぎわすこともありますが、これはごく一部のことだと思います。と言いながら情報源として古くからのメディア「本」「雑誌」は手放せないのです。(さ)

戸籍の窓口

(8月21日〜9月20日届出)

●お誕生おめでとう

8/24 佐藤 風香さん(義子) 松柴

●ご結婚おめでとう

8/23 横山 和也さん 石高
高橋 慎子さん 秋田市
9/8 畠山 好宏さん 大吹川
三浦 和美さん 本莊市

●ごめい福をお祈りいたします

8/30 菊地政之助さん(87) 昭雄・父・館西

9/10 小野 政次さん(72) 治郎・父・下通

おわびと訂正

9月号「虫歯なんかないもん」で千葉勇平くんは千葉優平くんの誤りです。おわびして訂正します。

八塩山をひとまたぎ



▲体育館に描かれた高橋先生の絵

道の駅から台山の方向を眺めるとひとときわ目立つ絵に気づきませんか。八塩山をひとまたぎする男の子が描かれた絵です。

この絵は本町出身の童話作家高橋宏幸先生が本町のイメージを描いた絵が元になっている。今回健康増進センター外壁の再塗装を機会に同施設の外壁にペンキで描きました。この七月に完成した町民プール壁面の泳ぐ少女画とともに台山の新しい顔として注目されています。

また農道が整備されていることもあり、道の駅に車を置いて近くまで散歩する人もいて、その迫力に驚いているようでした。

体育館の絵

まごころ

社会福祉協議会に畠山正志さん(茂沢)、安倍孝志さん(家ノ下)、大沼武且さん(蔵)からご芳志が届けられました。また、広報送付謝礼として小野正雄さん(秋田市在住)から金一封が届けられました。ありがとうございました。



一九九九 石森プロ・テレビ朝日・ASAATSU DICK・東映

「秋まつり99」が10月30日(土)〜31日(日)に行われます。10月31日にはテレビでおなじみのロボコンがやってきます。まつり内容、時間などの詳細は決定次第、役場通信等でお知らせします。

秋まつりにロボコンがやってくる